

# 實用兒童學講義

女高師 中村 五六

## 一、兒童學とは何ぞや

嬰兒は神々しく幼兒は無邪氣であるとは世人の常に云ふ所である。殊に童男童女の優姿温行は其純潔無垢なる心情と其天真爛熳なる言行と共に古來最も尊む可く最も愛す可きものとせられて居た。併し纏つて是等小兒輩は何故に斯くは愛す可く尊む可きものであるかと問ふものがあつたらば恐らくは誰も明晰な説明をするものはないであらう。兒童學は畢竟是等の疑問を説明せんが爲めに彼等兒童心身の状態を研究して其活動發達の経路を明にせんとするものである。

兒童と云ふのは人の母體より出で、成人する迄の發達期間を總稱したものである。通常は小兒の生れてより滿一年に達する迄を乳兒と稱し、是より滿三才に至る生齒期間を嬰兒と稱し次に六七才に達する迄を幼兒と稱へ更に十四五才に達する迄を少

年少女と云ひ是より以後成年に達する迄を青年又は處女と稱するのが普通であるが兒童學が特に考明せんとするのは以上發達期間の全部を包含して之を總稱して兒童と云ふので、之を人間の成熟期間とも稱へるのである。

兒童學は即ち人間の成熟期間に於ける心身の状態並に其發達を研究し叙述せんとするものであると云ふことが出来る。此成熟期と云ふものは心身の状態が不完備の時代で生理上から云ふても又心理上から見ても共に成人に比して大なる差異を有して居るから其取り扱ひに就いては特殊な注意を要することは恰も通常の醫學が小兒に直に應用し難いのと同じ道理である。従つて兒童教養の任に當つて居るものは常に彼等兒童の特別な心身の状態を研究して置いて其教養の方法上に無理な注文をしたり無益な勞力を費さない様にしなければならぬ。是が兒童學の興起し來つた由來である。

斯様に兒童學は人間の成熟期間全部に亘つての考明であるが併し其成熟期は凡そ何年位で終るものであるかと云ふことは頗る多様の議論があつて今

俄に一定することが困難である。生理學者解剖學者の説に因ると人間の生熟の極度は廿五才である。と云ふし心理學者に従へば人間は三十才に達する迄は心意は固定的状態を採らぬと云ふから夫れ以前は充分なものとは云へぬ譯である、して見ると兒童學の研究範圍は頗る曖昧なものであるが、併し法律は世界何れの國でも多くは満廿才に達した時を以て丁年即ち成人に達したものと認めて智力德行共に一定の品性を保つて恒常不變の行爲が出来るものとして居る。是は世の必要に應じた最も適切な限度であるから、吾人も之を以て先づ兒童學考究の範圍と定めるのが穩當であらうと思ふ。我輩が本講義に於て述ぶる所は主として此見解に従ひ生初より丁年に達する迄の成熟期間に於ける兒童心身の状態並に其發達を研究し説明せんとするので是が即ち兒童學の任務とする所である。

近來兒童心身發達の状態を調査することが盛なるに連れて心理學生理學に有力な論據を得る様になつたので兒童學は漸く發達の機運に向つた。殊に

方今教育界に於る理論的研究の勃興は遂に兒童心理學兒童生理學兒童論理學兒童衛生學の成立を豫期せしむる様になつた。兒童學はつまり是等の諸學を統一するもので極めて近頃發達した學問であるから、従つて其研究の餘地甚だ廣く將來大なる隆盛を見る可く其隆盛に連れて各種の學問殊に人類に關する科學の隆盛を來すのは明かなことである。況して教育者の如きは斯學を研究せずして果して能く人の子を賦はざることを得可きか疑はしと云はねばならぬ。凡そ人を教育しやうと云ふに其手段方法悉く被教育者の自然的状態に適合しななければならぬ。而して其自然的状態は兒童學の研究に因つて知ることが出来る筈であるから教育者にして斯學を研究しないものがあるならば其は病理を究めずして醫師となつたり敵を知らずして戦つたりするのと同じで到底克つ譯のものではない。

又從來兒童心理學と云ふものが教育上に必要であること云ふことは能く一般に知られて居つたけれども然も是は唯兒童生活の一部分に過ぎない兒童

の心理的方面のみを研究したからとして児童の生活の全部を知る譯には行かない。其他に生理的倫理的、方面に於て教育上顧慮す可き諸點は擧げて數ふることが出来ない。要するに児童心身の状態全部を講究することに因つて得るところは悉く教育上に應用す可きもので單に心力作用の一方面のみを知ることを以て全般の教育を施行するに適するかの如く思惟するのは誤れる甚だしきものである。以上は児童學考究の必要なる所以であるが尙其他に種々な利益は斯學研究者に與へられるものである。例へば児童に對する同情の如き児童取扱に對する興味の如きは児童學研究の爲めに一層増加するもので従つて眞に児童を尊重し之を愛護せんとする觀念は湧然として起り來るに至るのである。



## 遊戲とは何ぞや

和田實

幼兒の生活々動は遊戲と習慣の集りであるが故に之を教育する手段や方法も亦此遊戲と習慣との中に見出す可きものであると云ふことは幼兒教育上に於ける吾人の主張である。併し吾人が所謂遊戯と云ふ語は元來極めて曖昧な言葉で往々にして數種の意味に解釋されることがある。或は特に職業を持たぬ人のことを彼は遊んで居ると云ふし、或は日曜の一日を別段爲すこともなく暮したとて之を遊んでしまつたと云ふ。従つて時には遊戯は茫然と無爲閑散の時を過すと云ふ様な意味に用ゐられて居る。併し學校などで教科目中に列記したる遊戯と云ふ字の意義は斯る安穩な意味でなく頗る嚴格な意味を以て居る。此の如き數種の解釋は果して何れが正常なものであらうか、遊戯を以て教育の事項として居る幼兒教育者は此點に關して十分な研究をして置く必要があるまいか。因て吾人は茲に遊戯に就いて復も根本的説明を試み様と